

—探究を通じて自己創造を！ 挑戦する勇気を！—

課題を主体的に発見・思考・解決し、新たな価値を創造できる人材育成プログラムの研究開発

令和 7 年度 SSH 中間発表会・運営指導委員会

2025 年 10 月 7 日（火）

10 月 7 日に、SSH 中間発表会を実施し、併せて運営指導委員会が開かれました。2 年文理・特進が「SS 探究専門ゼミナール I」で行っている研究のポスター発表を行い、1 年生は次年度の探究活動に向けて見学しました。当日は運営指導委員の先生方に加えて、保護者、教育関係者など、多くの方々が見学に訪れました。何より、清水中学校から 9 名、才教学園中学校から 3 名、信州大学教育学部附属中学校より 4 名の生徒をお迎えして発表を頂きました。生徒たちは、この発表会で多くのアドバイスを受け、今後の研究に役立てていきます。

◆講演会「高校生の探究活動は面白い！」

小林孝次先生（長野県県民文化部県民の学び支援課）



小林先生の豊富な SSH における課題研究の経験から「プレゼンテーション」、そして「自分の興味関心にこだわる」という事が探究活動において大切であるという話をしていただきました。Society5.0 や入試における課題研究の利点など、様々な観点から探究活動の楽しさをお話いただき、生徒達の心を動かしてくれました。

●生徒の皆さんの感想より

- ・なぜこんなにも探究活動が重視されているのか、その理由を知ることができてよかった。今後、周りのもので探究活動を行いたいと思った。松本の特産物などなら小さい頃から関わりがあるし、もっと松本のことを知れるから、身近なものから探究をして、だんだん視野が広がっていきたい。
- ・中学の頃から探究活動を積極的に行っており、そこで学んだ活動を思い出しながら話を聞きました。でも中学の頃の探究は、実験やデータ収集が主になっていたの、アイデアや考察に時間をかけたいと思った。

◆SSH 中間発表会

発表会の目的は、探究を一度まとめて見直して発表し、意見交換をしたり、質疑応答などにより研究を深めることです。今回は中学生の皆さんも参加し、自分たちの探究活動を振り返りながら今後の指標となるような助言を相互に行いました。運営指導委員や科学技術振興機構の先生、中学校の先生方などからも文理問わず専門的な見地から指導助言を行っていただき、探究活動がより深化された良いものに改善していけると期待できます。閉会行事の中では 4 名の運営指導委員によるテーマセッションを行い、豊富な経験から有意義なアドバイスをたくさんいただきました。2026 年 3 月 10 日（火）実施の最終報告会に向けて、より一層探究活動を深めていってほしいと思います。



●生徒の皆さんの感想より

- ・探究は今後大学やその先の社会人になった時にも活かしていける能力や知識をつけることができるのだと改めて知った。より良い探究活動のために、今後の研究内容を見直していきたいと思った。
- ・今後の活動としてアンケートを考えていましたが、狭い範囲でのアンケートは効果がある資料として使えないので、大規模で行うことや、高校生らしく地域と関わりを持った探究を行い、自分たちにできる最大限の挑戦ができるように試行錯誤していきたいです。

◆2025 年 運営指導委員会

運営指導委員会では本校の取り組み状況に対し、各専門的な見地からご指摘・アドバイスをいただきました。今後の SSH 事業に活かしていきます。以下は今年度の運営指導委員の皆さんになります。

- ・委員長：巽広輔先生（信州大学理学部 教授）
- ・副委員長：山田一哉先生（松本大学大学院健康科学研究科 教授）
- ・秋田真先生（松本大学教育学部 学部長）
- ・曾根原好彦先生（松本市教育委員会 教育長）
- ・南部高幸先生（KOA 株式会社 経営管理イニシアティブ地域価値創造センター）
- ・北島匡晃先生（長野県長野高等学校）
- ・森口泰孝先生（公益財団法人科学技術広報財団 理事長）
- ・藪田由己子先生（清泉大学人文社会科学部 教授）

最近の SSH 活動

キャリアガイダンス「専門分野×社会課題解決」

9 月 24 日（水）、学術的専門分野を社会課題解決に活用している方を講師にお招きしたキャリアガイダンスが行われました。探究活動を社会課題、さらに将来につなげる意識開発を行えたと思います。



専門分野×課題	内容
生物学×社会問題	微細藻類スピリリナによる食糧問題、プロテインライシス解決
化学×医療（卒業生）	化学の医療分野応用の例としてクロスカップリングの実習
工学×医療（卒業生）	医療工学とAIについて、東北大学の研究例をもとに紹介
テクノロジー×教育・福祉	遠隔操作ロボットOriHimeを用いて、テクノロジーの応用例を学ぶ
データ×スポーツ	プロチームのアナリストによる正しいデータの扱い方・見方
地域課題×仕事	地域の活性化、そして働くとは何かをグループワークで考える
地域課題×居場所	居場所作りから地域課題を探るワークショップ

講演会【光触媒の未来 ～堂免先生～】



10 月 30 日（木）、東京大学特別教授・信州大学特別栄誉教授であり、光触媒研究の第一人者として世界的に活躍されている堂免一成先生をお招きし、講演会を開催しました。

講演では、「なぜ水素なのか」という問いを出発点に、光エネルギーを利用して水より水素を生成する光触媒反応の原理や研究成果、社会実装に向けた展望について、わかりやすくご説明いただきました。

信州大学附属松本中学校との探究交流会

10 月 16 日（月）2 年特進コースの生徒 38 名が信州大学附属松本中学校へ行き、2 年生約 160 名と探究について語り合いました。



高校生・中学生共に各々の探究活動の成果や課題を持ち寄りつつ、今後の探究活動のあり方を中心に「意味のある探究とは何か」、「キャリアに繋がる探究とは」など、互恵的に語り合う素晴らしい企画となりました。

長野県学生科学賞作品展覧会にて

県教育委員会賞受賞

第 69 回長野県学生科学賞作品展覧会に本校より 15 作品を出品し、1 作品が県教育委員会賞をいただき、2 作品が入選しました。「知りたい」「突き詰めた」という探究心が形となり、第三者から高く評価された大変意義のある成果です。

県教育委員会賞

「長野県松本市における特定外来生物アカボシゴマダラと在来種オオムラサキ・ゴマダラチョウの棲み分けに関する考察」

齋藤京果 上條來那 中原冬華 福田莉久
熊谷愛莉 中島由唯 指導：百瀬秀俊



学校法人松商学園

松商学園高等学校

SSH の活動はホームページに掲載されています

<https://www.matsusho-h.ed.jp/>

